

社会的孤立を支援する事業

令和6年度実施分 宮古市提案事業(自由提案型)

実施団体名:社会的自立支援共同事業体

協働対象部署名:保健福祉部福祉課

実施日(期間):令和6年4月～令和7年3月

解決したい課題(事業のテーマ)

- ①支援対象者の否定的自己観や他者への拒絶感の改善
- ②本人や家族が地域社会から孤立している状況の打開
- ③ひきこもりの人達への理解不足、偏見の解消
- ④支援対象者の体験不足の解消、無業状態からの脱却
- ⑤支援対象者に対する再教育・学びなおし

事業の目的と成果など

- 社会との関係から遠ざかっているひきこもりの人達が人間関係を再構築し、各種体験を通して自己評価を高めることで、孤立から抜け出す足掛かりを支援していくことを目的とする。



- 体験活動への参加者が13名あり、モノづくりや農業等を体験する中で、自らが作り出していく達成感、そして有用感や自己肯定感が育まれ、視野が広がってきている。
- 今年度は31名の利用者があり、内4名が新規。31名中、就職または就労経験者は4名。

事業の経費

• 収入:2,478,219

(単位:円)

科目	R6年度予算額	R6年度決算額	増減	備考
委託料	2,453,980	2,453,980	0	
自己資金	70,400	24,239	-46,161	

• 支出:2,478,219

(単位:円)

科目	金額	科目	金額	科目	金額
講師謝金	766,000	食糧費	6,773	手数料	29,632
講師旅費	45,200	印刷費	16,808	使用料及び賃借料	982,107
体験・交流会費	174,920	光熱水費・燃料費	213,722		
消耗品費	83,927	通信運搬費	159,130		

協働について

市との役割分担

【提案者】 対面・リモートによる相談、居場所、各種体験、
セミナー等の実施

【市】 相談窓口の周知や啓発活動、広報活動、提案事業
への助言、他団体への働きかけ

今後の展望について

*課題(スライド2参照)の現状について

- ・支援対象者の高齢化が進んでいるが、体験活動等への参加者に関しては何らかの前向きな進展がみられている。
- ・新規の支援対象者は若年層の割合が増えてきている。
- ・潜在的対象者の掘り起こしが課題である。

*これからの事業について

- ・提案事業は令和6年度をもって終了となる。
令和7年度からは重層的支援体制整備事業の「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」として、アウトリーチ(様々なかたちで必要な人に必要な支援や情報を届けること)を重視したひきこもり支援の事業を継続する。

ご清聴ありがとうございました。

事業実施団体名:社会的自立支援共同事業体